

令和8年度 保健師キャリア別研修会事業計画実施要項

1. 中堅期保健師研修

1-1 研修会概要

1-1-1 研修会の目的

保健医療福祉施策を理解し、所属する自治体の地域特性に対応した事業を企画立案できる人材を育成する。

1-1-2 研修会募集条件

受講対象をキャリアレベルA-2～A-3、または経験年数概ね6～15年として募集

1-1-3 到達目標

- ①所属自治体の施策体系や財政のしくみ、法的根拠や関連政策について説明できる。
- ②作成した事業を評価に基づき見直しを行い、新規事業計画の立案に向けた所属自治体の健康課題を明らかにすることができる。
- ③事業計画（予算を含む）立案にあたり、計画に合わせた予算を立てることができる。
- ④作成した事業を他者（上司）に向けて説明できる。

1-1-4 研修会の内容

回	年月日・場所	時間	内 容
1	6月4日 (木) 301 講義室	9:50	開催挨拶 秋田県健康福祉部 保健・疾病対策課長 オリエンテーション 事務局
		10:00	講義「保健師のコアバリュー・コアコンピテンシー～実践活動との確認～」 講師：日本赤十字東北看護大学 萩原 智代
		11:00	講義「地域の健康課題の解決に向けた事業企画」 講師：日本赤十字東北看護大学 佐々木 久美子
		12:00	(12:00～12:50 休憩)
		12:50	ワークシートの説明 講師：日本赤十字東北看護大学 佐々木 久美子
		13:30	グループワークの進め方の説明 グループワーク「地区活動を通して解決したい健康課題と事業企画」 ・今回の研修会で各自が企画したいと考えている健康課題を明確にする。 ・各自が考えている地域の健康課題について発表し意見交換する。 (1人10分、意見交換20分) ・ファシリテーター：グループ数により前回受講者に依頼

		15:30	講評（次回にむけてファシリテータからの助言）
		16:00	アンケートについての説明、実施 講師：日本赤十字東北看護大学 森田 誠子
		16:30	事務連絡、終了
2	7 月 28 日 (火) 302 講義室、 303 講義室	9:50	オリエンテーション
		10:00	グループワーク「私が解決したい健康課題と事業企画」 ・各自が作成した個人企画書を検討する。 ・1 人 50 分（説明 15 分、意見交換 30 分、次回までに改善したいこと 5 分） (12:10～13:00 休憩) ・ファシリテーター（第 1 回に依頼した人に依頼する）
		15:00	全体質疑応答 講評
		15:30	講義「自分の考えを相手に伝えるプレゼンテーションとは」 講師：日本赤十字東北看護大学 森田 誠子
		16:30	事務連絡、終了
3	10 月 9 日 (金) 301 講義室、 303 講義室	9:50	オリエンテーション、発表準備
		10:00	全体プレゼンテーション「解決したい健康課題と事業企画」 ・発表 10 分、質疑・講評 15 分 ・受講生は評価の視点にそって発表を聞きながら記載し、それを基に質問、意見を話す。 ・ファシリテーターからの講評は、受講生の発表ごとに行う。 (進行状況により 50 分の休憩をとる)
		15:15	上司（事務職）として、事業企画のプレゼンテーションを受けての講評
		15:30	グループワーク「組織で実施できる事業計画へのブラッシュアップ」 ・“より良い企画にする”のではなく、“実際に動かせる計画にする”を意識する。 ※詳細は以下の通り
		16:40	アンケート説明、記入
		17:00	終了

1-2 企画書作成に向けた各回のグループワークについて

1-2-1 第 1 回グループワーク

- ・テーマ「地区活動を通して解決したい健康課題と事業企画」

グループは 4 人で編成し、1 人 30 分の持ち時間（説明 10 分、意見交換および次回迄の方向性確認 20 分）の中で実施する。ファシリテーターは参加人数、グループ数により昨年度の受講者に依頼する。

1-2-2 第 2 回グループワーク

- ・テーマ「私が解決したい健康課題と事業企画」

研修会が指定した様式に沿って各自が作成した企画書を、前回と同じグループで、1 人 50 分の持ち時間で、発表（15 分）したのち、意見交換（30 分）、次回迄の方向性を確認（5 分）する。

1-2-3 第3回グループワーク

・話し合いの視点として、以下を説明し受講生全員でディスカッション（70分）を行う。

（1）目的

発表および他者評価を踏まえ、作成した事業企画を「組織で実施できる計画」に近づけることを目的とする。感想の共有ではなく、修正点・改善点を明確にすることを重視する。

（2）話し合いの視点

- ①所属課長（事務職）へのプレゼンテーションを行い、最も説明が不足していると思う点は何か、その点を補うためにどのような説明や資料があればよいか。
- ②この企画を実行するうえで、最も大きなリスクは何か。そのリスクに対しての対応策は何か。
- ③既存事業の評価結果は、健康課題の設定に十分に活かされていたか。他者からの意見を踏まえ、健康課題の捉え方を見直す必要がある点はあるか。
- ④本日のグループワークを踏まえ、最初に修正・見直すべき点は何か（1点に絞る）。その修正は、企画全体にどのような影響を与えるか。

・最終回のグループワークでは、単に感想を共有するのではなく、上司への説明、事業実施上のリスク、健康課題の妥当性などの視点から企画を見直すことを重視した。これにより、受講者が作成した企画を「実際に行政組織の中で実施できる計画」に近づけることを目的としている。

1-3 研修会評価

1) 事前評価

- ・受講者の基本属性：年齢、性別、保健師経験年数、現在の自治体での勤務年数、保健師以外の看護職としての職務経験、現在勤務している自治体の種類、現在勤務している自治体の人口、現在の部署、現在の職位、保健師基礎教育を受けた学校の種類
- ・この研修を受講するきっかけ；上司や同僚のすすめがあったから、現在の職位や担当業務で必要だと思ったから、今後のキャリアのために必要だと思ったから、保健師としての能力を伸ばしたかったから、研修内容に関心があったから、その他
- ・秋田県保健師の人材育成ガイドライン（R7年3月）キャリアラダーシート（4件法）

2) 3回目終了後評価

- ・所属自治体の施策体系や財政のしくみ、法的根拠や関連政策について理解できた（4件法）
- ・作成した事業を評価に基づき見直しを行い、新規事業計画の立案に向けた所属自治体の健康課題を明らかにすることができた（4件法）
- ・事業計画（予算を含む）立案にあたり、計画に合わせた予算を立てることができた（4件法）
- ・作成した事業を他者（上司）に向けて説明できた（4件法）
- ・研修全体の評価：満足度、有益度、評価、感想（4件法・自由記述）
- ・秋田県保健師の人材育成ガイドライン（R7年3月）キャリアラダーシート（4件法・自由記述）

3) 3回目終了3か月後評価

- ・秋田県保健師の人材育成ガイドライン（R7年3月）キャリアラダーシート（4件法・自由記述）